



■安全管理体制の再確認を!

スポーツの秋、テニスコートも賑わう最高の季節がやってきました。スクールでは新規入会者が増え、クラブでは暑い夏の間はお休みしていた会員様が復帰する、新たなテニスシーズンの始まる季節でもあります。

この機会に施設の安全管理体制の見直しをしましょう。

*安全管理マニュアル

安全管理マニュアルは現状に合致していますか?

事故や微細事故の事例を見直し、改善点があれば変更しましょう。

*スタッフへの教育

安全管理に関する研修は漏れていませんか?

新しいスタッフには初期研修を、既存スタッフにも定期的に確認研修を行いましょ。

*施設の確認

施設に破損部位・危険部位はありませんか?

施設確認をし、適切な対策を講じましょ。

*緊急連絡先の確認

事故発生時の緊急連絡先に変更はありませんか?

病院や診療時間の変更などを確認しておきましょ。

*備品の確認

救急箱の中身をチェックし、不足物は補充をしましょ。

AEDの電極パッドの期限も確認をしましょ。

★「～だろう」「おそらく～」等の思い込みを無くし、「ゼロの眼」で見直すことが大事です!

気をつけましょ!この季節

～徐々に秋から冬に向かいます～

1. スクール生のレベル差対応を

新規入会者、進級者、復帰会員が増える季節です。

担当クラス内の技術レベルに差がないかチェックをしましょ。

一部の会員に無理なドリルや負荷が掛かると事故の可能性が高まります。

2. 新規入会者への対応

新規入会者はドリルだけでなく、運動そのものに不慣れです。

また、既存会員に追いつこうと無理をしてしまふかもしれません。

コーチが無理の無いペースをつくってあげることが大事です。

3. 寒暖差に注意

昼間暖かくとも、ナイターの時間帯には急激に気温が下がります。

暖かい日中とは、ドリルのテンポや生徒の配列を変える工夫をしましょ。

また、体温調節のしやすい服装のアドバイスも大事です。

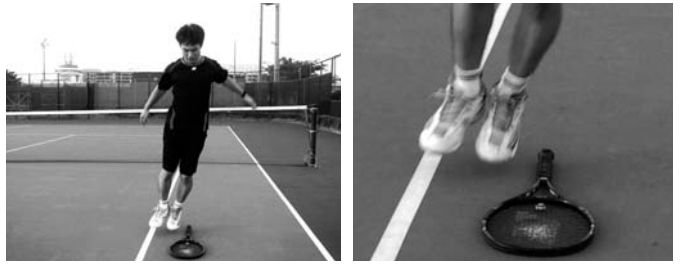
4. コートの状態を確認しましょ。

夜露、朝露、雨等々、コート状態が安定しない季節です。

必ずコート状態を確認し、無理の無い実施判断をしましょ。

■こんな場面に注意!!

ジュニアレッスンなどで、こんな練習をしていませんか?



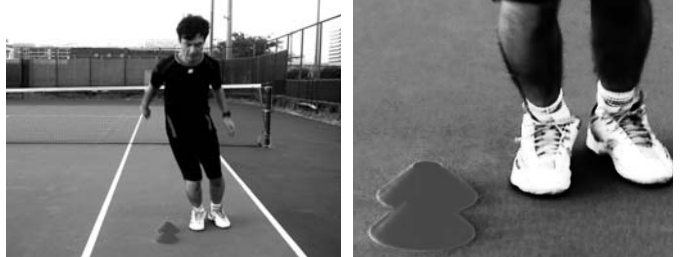
ラケット上を左右に飛ばせるラケットジャンプは、間違っテラケットを踏んでしまふと捻挫や転倒の危険性があります。

特にジュニアの場合、早く終わらせたくて必要以上に急いだり、低く飛んだりして、ラケットを踏んでしまふことがあります。

トレーニング的に実施する場合は、ミニコーンを使用しましょ。

視認性も良く、踏んでも潰れるので危険が少なくなります。

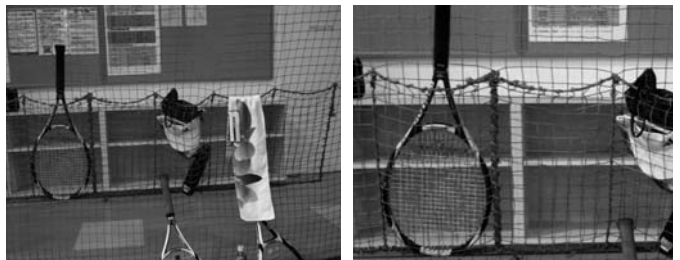
また、ラインをまたがせたりも有効的です。



■安全管理の工夫

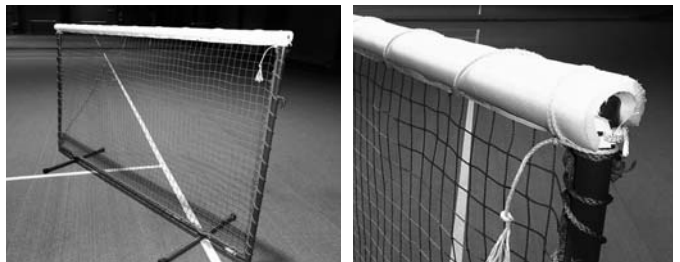
ちょっとした工夫で事故の発生確率は下がります。

*荷物入れポケット



コートフェンス部にポケットを設置することで、荷物を床に置くことが無いため踏んでしまふての転倒事故などの可能性が低くなります。

*補助ネット上部プロテクター



補助ネットの上部は鉄製のため、ネットインのボールが勢いよく飛んでくる場合があります。配管用の断熱材を巻きつけることでボールの勢いを弱め、また万が一の衝突事故の際も衝撃を吸収してくれます。

視認性も良くなり、また上部白帯の保護にもなります。

ホームセンター等にて安価で入手できます。